

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“ 「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第18回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。

「7.22宗形明・長野講演より」

今度は会社が「JR革マル派のガードマン」の危険性

最後に一言、会社は今とっても難しいところに来ている。会社は何とか軟着陸しようと一生懸命苦勞をし、知恵を絞ってやってきている。それを支えるのは実は皆さんである。革マル派は会社を支えない。ただ松崎氏がぐっところらえて講演の中で会社を攻撃しなかったのは、会社を攻撃したのならば「ああそうかい」と、会社は今まで西岡に言われ、宗形に言われ、外からわいわい言われ、心ならずも苦勞して守って来てやっているのに「そこまで言うのかよ」となったらお終いだからである。それを言わせたくないから言いたいのをこらえにこらえて、あの「大塚出て来い！松田出て来い！文句があったらかかって来い！」と言った男が、何も言えない。それが今の時代で、国鉄改革は仮に動労が不賛成のままでもやっぱり出来た。それは時代の流れであるからだ。これほどの立派な民間会社になって、世界に冠たる東日本がアキレス腱、タブーを抱えていけないのは時代の流れである。今、そこに来ている。

皆さんは苦勞している村田執行部をがっちり囲み全体としてこの地本をどうするんだと、長野地域、支社と社員のために、地本全体で本部とたたかう。会社は「やってくれ」とは絶対に言わない。言わせようとしても無理である。ただ腹の中にはある。それは私がこの仕事を何十年してきていて、また私には経営者の中にもたくさんの知り合いがいる。何を考えているかはぐらいいは分かる。会社は不当労働行為性のあることは口に出さないだけである。出したらおしまいである。

そろそろ下からの会社救済運動を。上からのやり方は限度がある。それは相手がバグダットのフセインであるからである。それは井手さんであろうと葛西さんであろうと、そう簡単に制圧できる相手ではない。しかも前の体制のつけを少しずつ解消して、今の体制は苦勞している。

会社も難しいところに来ている。いずれ皆さんを大事にする時代が来るが、会社もこれから気をつけなければならないのはたった一つである。この中に会社の人に来ていてくれればたいへんありがたいが。是非、会社の幹部に正しく伝わるようにしてもらいたい。

今まで警察内部の相当な人、前の検事総長まで実は柴田氏の息がかかっている時代があって、やっとそれが少しずつなくなってきて、今でもまだ米村という警備局長が尻尾を引きずっている。しかし黒いコウノトリが革マルのガードマンをしてきたとばらされて、にっちもさっちもいなくなってきた。

そして、会社も今のままで行くと「JR革マル派のガードマンは実は東日本会社だったのか」と言われかねない兆しが出てきている。これから先、マスコミが何を考えているかと言うと、警察高級官僚が革マルのガードマンだったということは彼らは反論しないし出来ない。実はあの話は私の本にも書いてある。私はその本を警察に送ってある。警察庁長官、警備局長、官房長に送ってある。それでも彼らは何も言っていない。マスコミの目もそちらへ向く。

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?” (高木書房) P.161~P.163】